

平成30年 2月

窪内康晃 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 梅 北 善 久
同 中 村 廣 繁

主論文

Podoplanin expression in cancer-associated fibroblasts predicts unfavourable prognosis in patients with pathological stage IA lung adenocarcinoma

(癌関連線維芽細胞のポドプラニン発現は、病理病期IA期肺腺癌患者の予後不良を予測する)

(著者：窪内康晃、万木洋平、若原誠、坂部友彦、春木朋広、野坂加苗、三和健、荒木邦夫、谷口雄司、塩見達志、中村廣繁、梅北善久)

平成30年 Histopathology 72巻 490頁～499頁

参考論文

1. Combined Large Cell Neuroendocrine Carcinoma (LCNEC) の2切除例

(著者：窪内康晃、高木雄三、前田啓之)

平成28年 日本呼吸器外科学会雑誌 30巻 96頁～102頁

2. Prognostic factors for post recurrence survival in resected pathological stage I non-small cell lung cancer

(切除された病理病期I期非小細胞肺癌における再発後の生存のための予後因子)

(著者：窪内康晃、城所嘉輝、大野貴志、万木洋平、若原誠、春木朋広、中村廣繁)

平成29年 Yonago Acta Medica 60巻 213頁～219頁

審査結果の要旨

本研究は早期肺腺癌における腫瘍細胞及びCAFsのポドプラニン発現と予後等の臨床病理学的因子との相関を検討したものである。その結果、新TNM分類を適応したIA期肺腺癌158例において腫瘍細胞のポドプラニン発現は予後に影響を与えなかった。一方、CAFsのポドプラニン発現は多変量解析にて、無病生存期間の予後不良因子であることが判明した。さらに、高悪性度病変(充実成分と微小乳頭状成分の両方またはいずれか一方)は無病生存期間、疾患特異的生存期間が有意に短いことも判明した。新TNM分類を適応したIA期肺腺癌において、CAFsのポドプラニン発現が予後不良因子であることを報告したのは本研究が初めてである。ポドプラニンに対する免疫組織化学検査は、日常診療で行われているリンパ管侵襲の評価だけでなく、予後不良な早期肺癌患者の層別化にも有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。